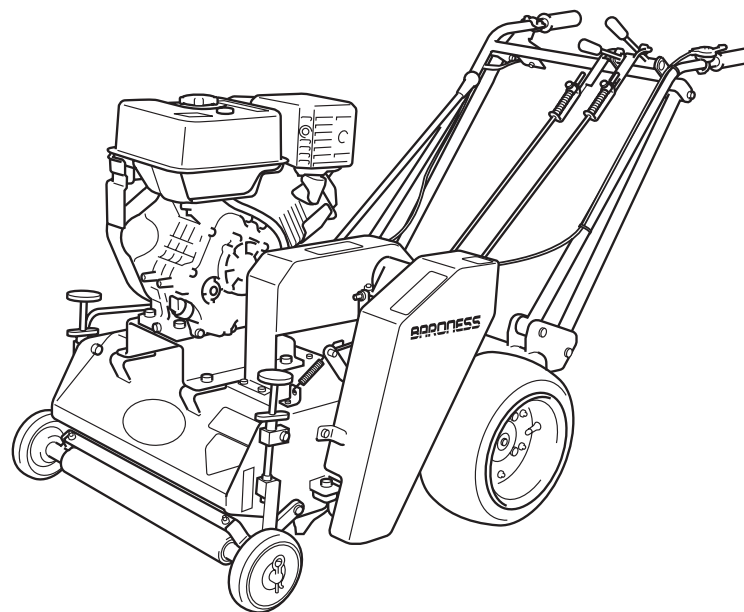


GS500C

グリーンスライサー

取扱説明書



“必読” 機械の使用前には必ず本書およびエンジンの取扱説明書をお読みください。

BARONESS[®]
Quality on Demand

Serial No. GS500C : 11031-

Ver. 2.0

目 次

ごあいさつ.....	3	5-3. ベルトの点検.....	12
はじめに.....	3	5-4. エアクリーナーの点検.....	13
危険警告記号の説明.....	3	5-5. エアクリーナーの清掃.....	13
使用上の注意.....	4	5-6. ローラーの点検.....	13
使用目的.....	4	5-7. タイヤの点検.....	14
安全.....	4	5-8. ブレーキの点検.....	14
安全上の注意事項.....	5	5-9. クラッチの点検.....	14
トレーニング.....	5	5-10. ワイヤーの点検.....	14
運転の前に.....	5	5-11. エンジン周りの点検.....	14
運転・操作.....	6	5-12. エンジンオイルの点検.....	14
保守と保管.....	7	5-13. エンジンオイルの補給.....	15
廃棄.....	8	5-14. 燃料の点検.....	15
リサイクルおよび廃棄処分.....	8	5-15. 燃料の給油.....	15
リサイクルについて.....	8	5-16. 燃料ストレーナーの点検.....	16
廃棄処分について.....	8	5-17. 燃料ストレーナーの清掃.....	16
製品概要.....	8	5-18. 各部油漏れの点検.....	16
1. 仕様.....	8	6. 締め付けトルク.....	17
1-1. 仕様表.....	8	6-1. 標準締め付けトルク.....	17
2. 各部の名称.....	9	6-2. 機種別締め付けトルク.....	18
3. 規制ラベル.....	10	7. 使用前の調整.....	19
3-1. 規制ラベル貼付位置.....	10	7-1. ハンドルの調整.....	19
3-2. 規制ラベルの説明.....	10	7-2. 切り込み深さの調整.....	19
機番プレート.....	10	8. エンジン始動・停止.....	20
4. 警告ラベルと指示ラベル.....	11	8-1. エンジン始動上の注意.....	20
4-1. 警告ラベルと指示ラベルについて.....	11	8-2. エンジン始動手順.....	20
4-2. 警告ラベル・指示ラベル貼付位置と説明.....	11	8-3. エンジン停止手順.....	21
取り扱い説明.....	12	9. 操作方法.....	21
5. 点検.....	12	9-1. 機械操作上の注意.....	21
5-1. スライス刃の点検.....	12	9-2. 機械を離れるときの注意.....	21
5-2. カバーの点検.....	12	9-3. 操作ラベルの説明.....	22

9-4. エンジンスイッチ	23
9-5. スロットルレバー	23
9-6. ブレーキレバー	23
9-7. 走行クラッチレバー	24
9-8. チェンジハンドル	24
9-9. カッタークラッチレバー	25
10. 移動	25
11. 作業	26
11-1. バーチカルカッティング操作	26
11-2. 移動用前車輪の脱着	27
12. 運搬	28
13. 長期保管	28
メンテナンス	29
14. メンテナンス上の注意	29
14-1. メンテナンスの注意事項	29
14-2. メンテナンス時の機械姿勢	29
15. メンテナンススケジュール	30
16. ジャッキアップ	30
16-1. ジャッキアップについて	30
16-2. ジャッキアップポイント	30
17. グリースアップ	31
17-1. グリースアップについて	31
17-2. グリースアップ位置	31
18. メンテナンスの方法	32
18-1. スライス刃の交換	32
スライス刃の取り外し	32
スライス刃の取り付け	33
18-2. ベルトの張り調整	34
走行用ベルト	34
カッターベルト（エンジン-中間軸）	35
カッターベルト（中間軸-ナイフ軸）	35
18-3. ブレーキの調整	36
18-4. エアクリーナーの交換	37
18-5. エンジンオイルの交換	37

18-6. ミッションオイルの交換	38
-------------------	----

ごあいさつ

このたびは、パロネス製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本書は、この製品の正しい取り扱い方法と調整方法、また点検方法について説明しています。

いつまでも優れた性能を発揮させ、安全な作業をしていただきますようお願いいたします。

はじめに

本書を読んで製品の使用方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑のかからない、適切な方法でご使用ください。

この製品を適切かつ安全に使用するのをお客様の責任です。

整備を行う場合は専門知識のある要員によって作業を行ってください。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店、販売店または、弊社にお問い合わせください。


お問い合わせの際には、必ずこの製品の型式と製造番号をお知らせください。

この製品を貸与または、譲渡する場合はこの製品と一緒に本書をお渡しく下さい。

株式会社 共栄社

危険警告記号の説明

本書では安全に関する重要な取り扱い上の注意事項について、危険警告記号を使用し、次のように表示しています。

	危険警告記号
<p>この記号は「危険」「警告」「注意」に関する項目を意味します。いずれも安全確保のための重要事項が記載してありますので、注意して読みいただき、十分理解してから作業を行ってください。これらを遵守されない場合、事故につながるおそれがあります。</p>	
<p>⚠ 危険 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。</p> <p>⚠ 警告 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うおそれがあるものを示しています。</p> <p>⚠ 注意 その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのある、または物的損傷の発生が予測されるものを示しています。</p> <p>重要 製品の構造などの注意点を示しています。</p>	

使用上の注意

▲注意

本書記載事項は、改良のため予告なしに変更する場合があります。
部品交換を行う場合は、必ず「BARONESS 純正部品」または「弊社指定部品」を使用してください。
純正部品以外の部品を使用して生じた不具合については責任を負いかねます。

この製品を使用する前に下記の取扱説明書を必ずお読みいただき、内容を十分にご理解ください。

- ・バロネス製品の取扱説明書
- ・エンジンの取扱説明書

使用目的

この製品は、ゴルフ場（グリーン）のパーティカルカッティング作業を目的とした機械です。この目的以外で使用したり、機械の改造をしないでください。

この製品をその他の目的で使用したり、改造すると大変危険であり、機械を損傷する原因にもなります。

安全

誤使用や整備不良は負傷や死亡事故につながります。

▲危険

この製品は、安全な取り扱いができるように設計されており、工場出荷時には十分な試運転、検査を重ねた上で出荷しております。

事故防止のための安全装置は装備しておりますが、これらは適切な操作、取り扱い、および日常の管理方法が大きく影響します。

機械を適切に使用または管理しない場合、人身事故につながるおそれがあります。以下の安全指示に従い、安全な作業を行ってください。

安全上の注意事項

トレーニング

1. 本書や関連する機器の説明書をよくお読みください。
各部の操作方法や警告ラベル、機械の正しい使用方法に十分慣れておきましょう。
2. オペレーター、整備士が日本語を読めない場合には、オーナーの責任において、本書の内容を十分に説明してください。
3. すべてのオペレーター、整備士に適切なトレーニングを行ってください。
トレーニングはオーナーの責任です。
4. 子供(18才未満)や正しい運転知識のない方には機械を操作させないでください。
地域によっては機械のオペレーターに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
5. オーナーやオペレーターは自分自身や他の安全に責任があり、オーナーやオペレーターの注意によって事故を防止することができます。
6. 人身事故や器物損壊などについてはオーナー、オペレーター、整備士が責任を負うものであることを忘れないでください。
7. 本書には、必要に応じて追加の安全情報が記載されています。
8. 通常の操作位置から機械の左右を決めています。

運転の前に

1. 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するには、どのようなアクセサリーやアタッチメントが必要かを判断してください。
メーカーが認めた以外のアクセサリーやアタッチメントを使用しないでください。
2. 作業には安全靴と長ズボン、ヘルメット、保護メガネ、および聴覚保護具（イヤーマフ）を着用してください。
長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻き込まれる危険があります。
また、裸足やサンダルで機械を運転しないでください。
3. 機械が使われる区域を点検し、小石、玩具、および針金のような、機械がはね飛ばす可能性のあるすべての物体を取り除いてください。
4. 子供を作業区域に入れないでください。オペレーター以外の大人の監視下に置いてください。
5. 燃料の取り扱いには十分注意してください。

警告

燃料は引火性が高いので、以下の注意を必ず守ってください。

- [1] 燃料は専用の容器に保管する。
 - [2] 給油はエンジンを始動する前に行う。
エンジンの運転中やエンジンが熱いときに燃料タンクのフタを開けたり給油をしない。
 - [3] 給油は必ず屋外で行い、給油中は火気厳禁とする。
喫煙しない。
 - [4] 燃料がこぼれたらエンジンを始動せずに、機械を別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけない。
 - [5] 燃料タンクや燃料容器のフタは確実に閉める。
6. 運転操作装置（ハンドル、ペダル、レバーなど）、安全装置、防護カバーが正しく取り付けられ、正しく機能しているか点検してください。
これらが正しく機能しないときには作業を行わないでください。
 7. ブレーキの効きが悪かったり、ハンドルに著しいガタがある場合は、必ず調整、修理してから使用してください。
 8. マフラーが破損したら必ず交換してください。
 9. 使用前にスライス刃を目視で点検してください。異常振動の発生を防ぐため、スライス刃が磨耗した場合は全数同時に交換してください。

運転・操作

1. 有毒な一酸化炭素ガスがたまる可能性のある閉め切った場所では、エンジンを作動しないでください。
2. 十分に明るい場所でのみ運転し、穴や、隠れた危険を避けるようにしてください。
3. エンジンを始動する前に作業部への駆動をすべて遮断し、走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキをかけてください。
4. 本書の指示に従い、刃から足を十分離れた状態でエンジンを始動させてください。
5. できるだけ、濡れた草地での運転を避けてください。
6. 傾斜地では常に足元に注意してください。
7. 走らないでください。
8. 「安全な斜面」はありません。
芝生の斜面での作業には特に注意が必要です。
転倒を防ぐために
 - 〔1〕 極端に急な傾斜地では作業をしない。
 - 〔2〕 斜面では急停止、急発進しない。
 - 〔3〕 走行クラッチがある機械はクラッチをゆっくりつなぐ。
また坂を下る場合は、走行ギヤを入れた状態にする。
 - 〔4〕 斜面の走行や旋回は低速で行う。
9. ガードが破損したり、正しく取り付けられていない状態のまま運転しないでください。
10. エンジンのガバナーの設定を変えたり、エンジンの回転速度を上げすぎたりしないでください。
エンジンを規定以上の速度で運転すると、人身事故を起こす危険が増大します。
11. 高温部に触れないように注意してください。
12. 運転位置を離れる場合は次を厳守してください。
 - 〔1〕 平らな場所に停止する。
 - 〔2〕 作業部と走行の駆動を遮断する。
 - 〔3〕 走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキをかける。
 - 〔4〕 エンジンを停止する。
13. 以下のような状況になった場合には、エンジンを停止してください。
 - 〔1〕 燃料を給油するとき。
 - 〔2〕 作業深さを調整するとき。
ただし運転位置から遠隔操作で行える場合は除きます。
 - 〔3〕 詰まりを取り除くとき。
 - 〔4〕 機械の点検、清掃、整備作業などをするとき。
 - 〔5〕 機械を離れるとき。
 - 〔6〕 機械に異物がぶつかったり、異常な振動を感じたとき。
機械を再始動する前に機械の損傷を点検・修理してください。
14. 作業部や回転部に手足を近づけないでください。
15. エンジン作動中は、機械を持ち上げたり、運んだりしないでください。
16. 後進するときは、下方と後方の安全に十分注意してください。
17. 周囲に人がいるとき、特に子供やペットがいるときは、絶対に作業を行わないでください。
18. 旋回するとき、管理道路やカート道、歩道を横断するときは減速し、周囲に十分注意してください。
19. 草地以外の場所では、スライス刃の回転を停止してください。
20. 移動走行中や作業を休んでいるときは、作業部への駆動を止めてください。
21. アルコールや薬物を摂取した状態で運転をしないでください。
22. 機械をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。
積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、輪止めをして行ってください。
トラックやトレーラーに積載して移動するときは、機械の駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。
あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。
23. 機械を輸送する場合は、燃料コックは閉じてください。
24. 見通しの悪い曲がり角、植え込みや立ち木などの陰では安全に十分注意してください。
25. わき見運転、手放し運転はしないでください。
26. エンジンを停止するときにはエンジン回転を下げてください。
燃料コックが付いている場合は、燃料コックを閉じてください。
27. 落雷のおそれがあるときは、作業を中断して機械から離れてください。

保守と保管

1. 修理・調整・清掃作業の前には、平らな場所で機械を停止し、作業部の駆動を遮断し、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、念のために点火プラグからワイヤーを抜いてください。
また、機械のすべての動きが完全に停止したことを確認し作業を行ってください。
2. 火災防止のため、エンジンやマフラー、燃料タンクの周囲、作業部の周囲、および駆動部に、余分なグリース、草や木の葉、埃などがたまらないよう注意してください。
オイルや燃料がこぼれた場合はふき取ってください。
3. 閉めきった場所に機械を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認してください。
4. 機械にシートをかけて保管する場合は、過熱部分が十分冷めていることを確認してから行ってください。
5. 炎や火花がある屋内では、タンクに燃料が入った状態で保管しないでください。
6. 機械の保管・搬送時には、燃料コックが付いている機械は、燃料コックを閉じてください。
7. 炎の近くに燃料を保管しないでください。
8. 絶対に訓練を受けていない人に機械を整備させないでください。
9. 点検・整備はマフラーやエンジンが冷めてから行ってください。
10. 調整、整備などに必要な工具類は適切な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。
11. 機械をジャッキアップする場合は、ジャッキスタンドなどを使用し、確実に支えてください。
12. 部品を取り外すときなど、スプリングや油圧などの圧力が一気に解放される場合がありますので、注意してください。
13. 配線などが接触したり、被覆のはがれがないように注意してください。
14. スライス刃の点検を行うときには、安全に十分注意してください。
〔1〕必ず手袋を着用してください。
〔2〕悪くなったスライス刃は必ず交換してください。
15. 可動部に手足を近づけないでください。
エンジンが作動したままで調整作業をしないでください。
16. すべての部品が良好な状態にあるか点検を怠らないでください。
消耗したり破損した部品やラベルは安全のため早期に交換してください。
17. 常に機械全体の安全を心掛け、ナットやボルト、ねじ類が十分締まっているかを確認してください。
18. 燃料タンクの清掃が必要になった場合は、屋外で作業を行ってください。

廃棄

リサイクルおよび廃棄処分

リサイクルについて

バッテリーなどは環境保護および資源の有効活用のためにリサイクルされることを推奨します。

また、地域によっては法律により義務付けられています。

廃棄処分について

整備、修理などの作業で出た廃棄物については、地域の法律に従って適切に処分してください。

(例：廃油、不凍液、ゴム製品、配線など)

製品概要

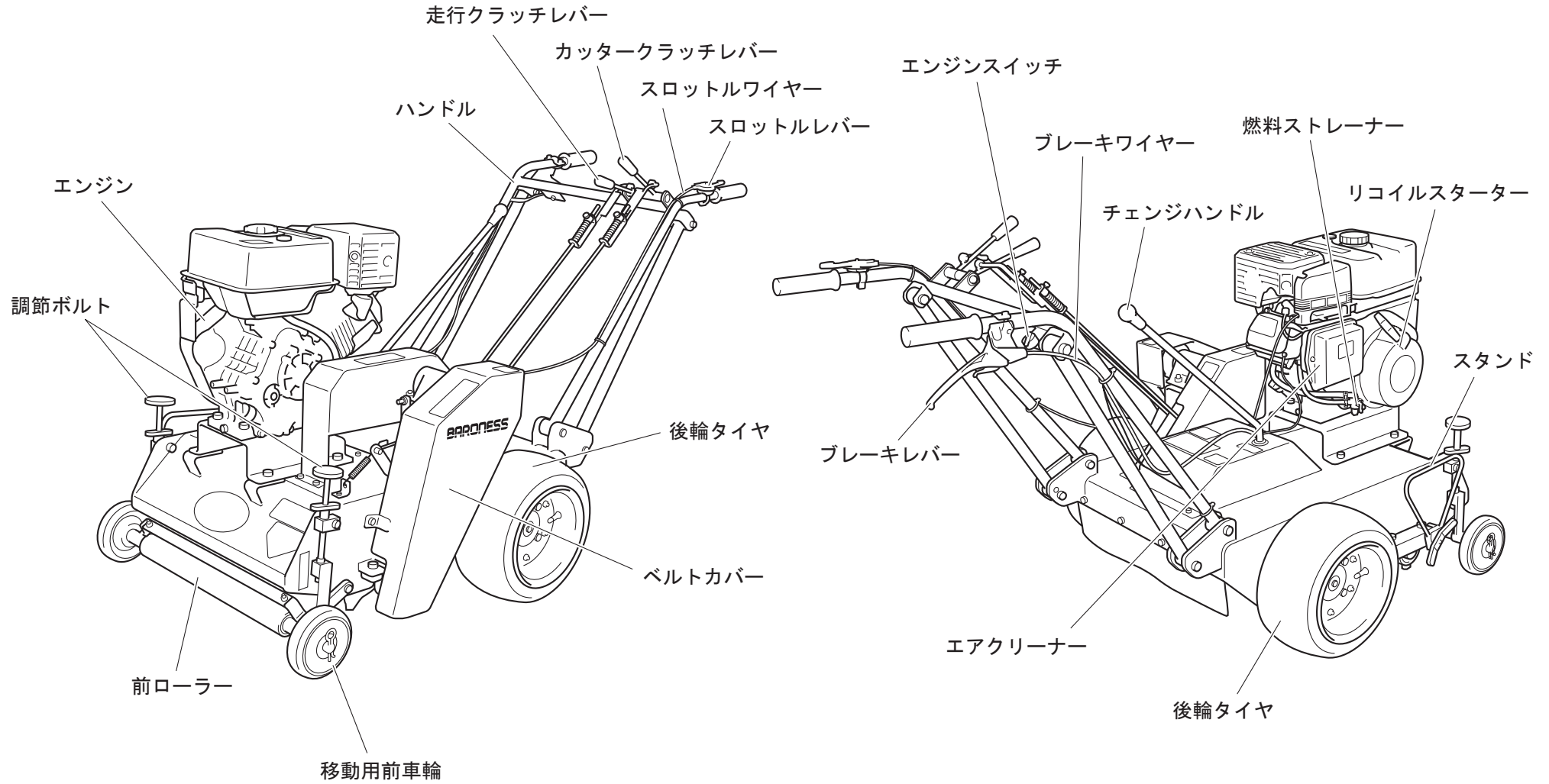
1. 仕様

1-1. 仕様表

型式	GS500C		
寸法	全長	150 cm	
	全幅	90 cm	
	全高 (深さ目盛「0」、移動用前車輪有)	90 cm	
質量	(燃料タンク空)	158 kg	
最小回転半径	135 cm		
エンジン	型式	三菱 GB290LN	
	種類	空冷4サイクル傾斜形横軸OHVガソリンエンジン	
	総排気量	296 cm ³ (0.296 L)	
	最大出力	5.8 kW (8.0PS)/2,000 rpm	
燃料タンク容量	ガソリン 6.0 dm ³ (6.0 L)		
燃料消費率	320 g/kW・h (定格出力時)		
エンジンオイル容量	1.0 dm ³ (1.0 L)		
冷却水容量	-		
油圧タンク容量	-		
ミッションオイル容量	1.0 dm ³ (1.0 L)		
スライス刃	厚さ	1.2 mm	
	枚数	21 枚	
作業幅	50 cm		
ピッチ	25.2 mm		
作業深さ	0 - 30 mm		
駆動方式	走行	メカ切り替え方式	
	作業部	メカ方式	
速さ (HST)	-		
速さ (メカ)	前進	低速	3.6 km/h
		高速	5.9 km/h
	後進	2.3 km/h	
能率	1,440 m ³ /h (3.6km/h x 作業幅 x 0.8)		
使用最大傾斜角度	-		
タイヤサイズ	前輪	-	
	後輪	13 x 6.00-8	
タイヤ空気圧	前輪	-	
	後輪	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)	
バッテリー	-		
スパークプラグ	BPR5ES		

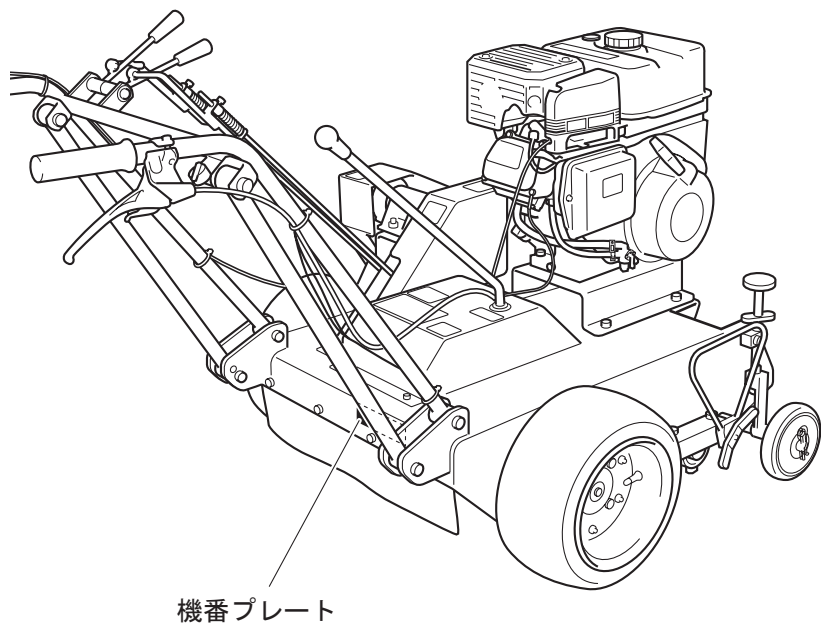
※ 出荷時のエンジン最高回転速度は、1,900 rpm

2. 各部の名称



3. 規制ラベル

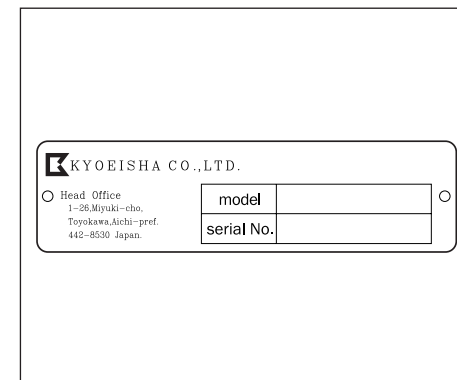
3-1. 規制ラベル貼付位置



3-2. 規制ラベルの説明

機番プレート

機番プレートは、型式と機番が記載されています。



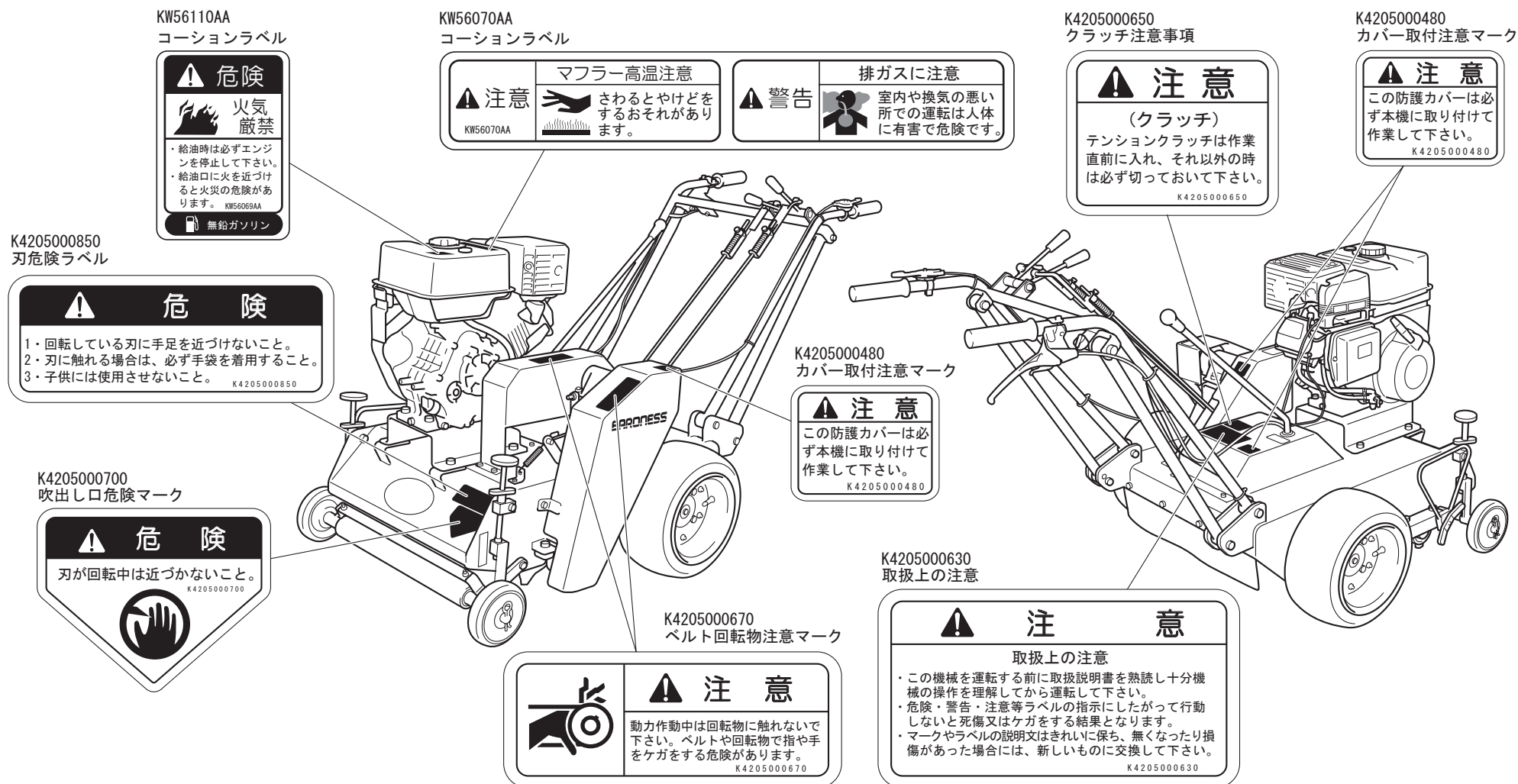
4. 警告ラベルと指示ラベル

4-1. 警告ラベルと指示ラベルについて

重要 この製品には、警告ラベルと指示ラベルが貼り付けられています。ラベルはきれいに保ち、損傷や汚れ、はがれがあった場合は、新しいものと交換してください。

交換するラベルの部品番号は、パーツカタログに記載されています。購入販売店または弊社に注文してください。

4-2. 警告ラベル・指示ラベル貼付位置と説明



取り扱い説明

5. 点検

機械の性能を引き出し、長くご使用いただくために、必ず点検をしてください。

5-1. スライス刃の点検

▲注意

スライス刃は刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

▲注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

使用頻度や移動中での損傷などにより、バランスが崩れて振動が出たり、切れ味が悪くなることがあります。

点検をし、必要に応じてスライス刃を交換してください。

- スライス刃が曲がっていないか確認してください。
- スライス刃が欠けていないか確認してください。
- スライス刃の磨耗量を確認してください。
- スライス刃の刃先が丸みを帯びて切れにくくなっているか確認してください。
- 刃物シャフトに歪がないか確認してください。

5-2. カバーの点検

▲注意

点検時に防護カバーを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。

防護カバーが取り外されていると、異物が飛散してケガをするおそれがあります。

- 防護カバーなどに磨耗や劣化が無いか確認してください。
- 防護カバーなどに破損が無いか確認してください。
- 防護カバーなどに変形による可動部への干渉が無いか確認してください。
- 防護カバーなどが所定の位置に取り付けられているか確認してください。

5-3. ベルトの点検

▲警告

ベルトの点検は、必ずエンジンを停止させた状態で行ってください。

▲注意

点検時にカバーなどを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。

カバーなどが取り外されていると、回転物やベルトに触れて、ケガをするおそれがあります。

重要

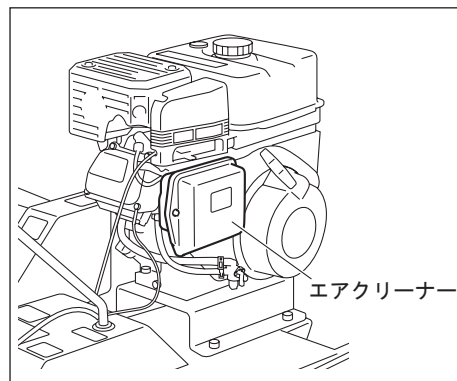
走行用のベルトは、切れると走行不能になります。

- ベルトの中央を指で押さえて、張り具合を確認してください。
- 亀裂、損傷、異常磨耗が無いか確認してください。

5-4. エアクリーナーの点検

エアクリーナーは吸入された吸気に含まれている砂塵を取り、シリンダーライナー、ピストンリングの磨耗を防ぎ、エンジンをいつも快調にする装置です。

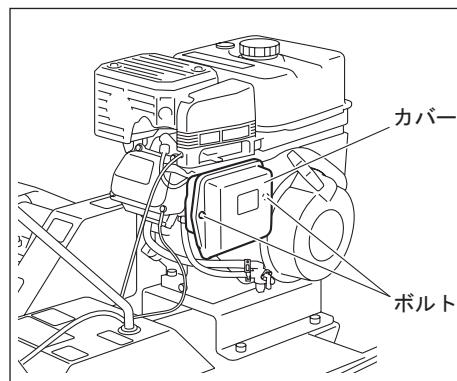
- エアクリーナーに損傷が無いか確認してください。
- エアクリーナーエレメントに汚れが無いか確認してください。



5-5. エアクリーナーの清掃

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。エンジンの寿命を延ばすために適切な清掃をするように心掛けてください。

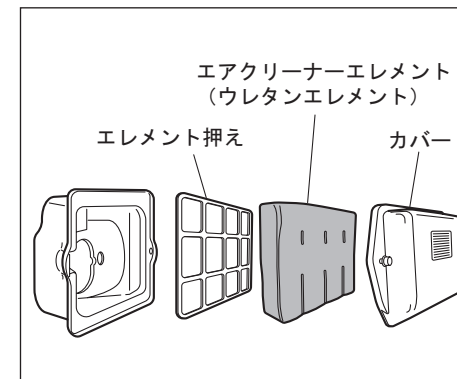
1. ボルトを取り外して、カバーを取り外してください。



重要

エアクリーナーエレメントは、破損や汚れがある場合は交換してください。

2. エアクリーナーエレメント（ウレタンエレメント）とエレメント押えを取り外してください。



3. ウレタンエレメントは、引火性の低い灯油などの溶剤で洗浄後、エンジンオイルに浸し、硬く絞ってください。
4. エレメント押えの汚れをふき取ってください。
5. エレメント押えとエアクリーナーエレメント（ウレタンエレメント）を取り付けてください。
6. カバーを取り付け、ボルトを締め付けてください。

5-6. ローラーの点検

使用頻度によるベアリングの磨耗や、水分が入ることでベアリングなどが損傷することにより、ローラーが円滑に回らないことがあります。ローラーの点検をし、必要に応じてオイルシール、ベアリングなどの部品を交換してください。

- ローラーの減り、固着が無いか確認してください。
- ローラー軸が磨耗していないか確認してください。
- オイルシールの磨耗、損傷は無いか確認してください。
- ベアリングの磨耗、さびは無いか確認してください。
- ローラー軸にガタが無いか確認してください。

5-7. タイヤの点検

- タイヤの空気圧を確認してください。
- 亀裂、損傷、異常磨耗が無いか確認してください。

	タイヤサイズ	空気圧
後輪	13 × 6.00-8	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)

5-8. ブレーキの点検



注意
機械を水平な場所に駐車してください。
傾斜地での駐車は絶対にしないでください。

- ブレーキレバーを握り、ブレーキが完全に動作するか確認してください。
- ブレーキレバーを強く握ったとき、ブレーキレバーがロックされるか確認してください。
- ロック解除レバーを握ったとき、ブレーキレバーのロックが解除されるか確認してください。
- ブレーキレバーのロックを解除したとき、ブレーキの引きずりが無いことを確認してください。

5-9. クラッチの点検

- クラッチレバーを操作し、クラッチが完全に動作するか確認してください。
- クラッチレバーの作動状態が良好か確認してください。

5-10. ワイヤーの点検

- ワイヤーに亀裂、損傷が無いことを確認してください。
- 亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

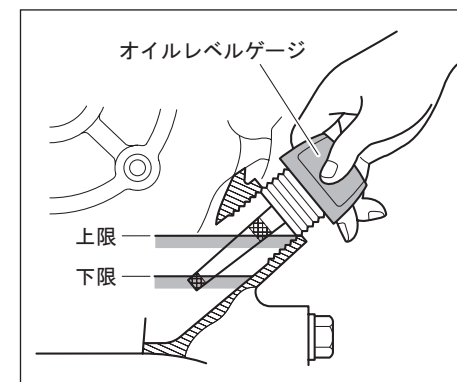
5-11. エンジン周りの点検

- 燃料系統の部品は、ひび割れや漏れが無いかを確認し、必要があれば交換してください。
- マフラーやマフラーの周りに、草や葉および可燃物が付着している場合は、圧縮空気を吹きつけて清掃してください。
- リコイルスターター、ファンカバーおよびシリンダーのフィンの間に刈草などが詰まっている場合は、圧縮空気を吹きつけて清掃してください。

5-12. エンジンオイルの点検

重要 オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

1. オイルレベルの点検は、エンジンを停止し、10 - 20分後に行ってください。
2. エンジンを水平な状態にし、オイル注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。
3. エンジンオイル量が上限と下限の間であれば適量です。



5-13. エンジンオイルの補給

重要

エンジンオイルの入れ過ぎは、エンジンの破損事故の原因となります。

重要

絶対に異なった種類のエンジンオイルを混ぜないでください。

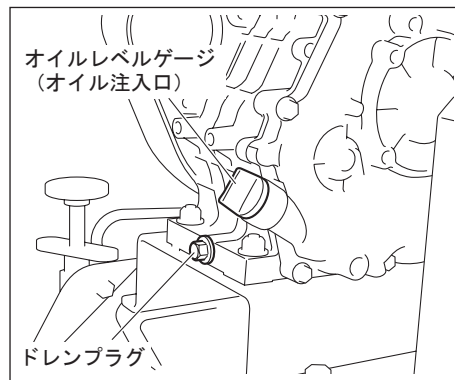
重要

エンジンオイルは、API サービス分類のSE 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

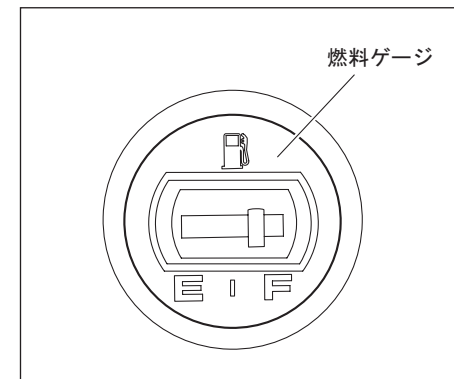
オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

1. オイルレベルゲージを取り外してください。
2. オイル注入口から新しいエンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上限になるまでエンジンオイルを入れてください。
3. エンジンを水平な状態にし、オイル注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。
4. オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。



5-14. 燃料の点検

機械を水平な状態にし、燃料タンク上の燃料ゲージにて、量の確認をしてください。



5-15. 燃料の給油

警告

燃料ゲージの FULL の位置以上に給油はしないでください。

燃料を入れ過ぎると、傾斜地での走行・作業時などにタンクキャップより燃料があふれる可能性があります。

警告

燃料給油時は、火気厳禁です。

喫煙しないでください。

警告

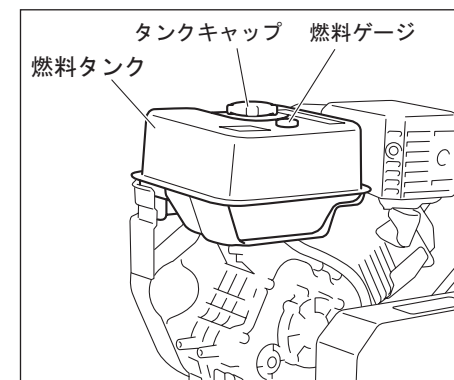
燃料の給油はエンジンを停止し、十分冷えてから行ってください。

注意

高温部に触れないように注意してください。

燃料タンク上の燃料ゲージが、EMPTY に近づいたら早めに燃料（ガソリン）の給油を行ってください。

燃料タンク容量は、約 6.0 dm³(6.0 L) です。



5-16. 燃料ストレーナーの点検

燃料ストレーナーは、燃料タンク近くに取り付けてあり、キャブレターへの流入燃料をきれいにします。

燃料の流れが悪くなったら、必要に応じて清掃または、交換してください。

- 燃料漏れが無い確認してください。
- 傷、汚れが無い確認してください。

5-17. 燃料ストレーナーの清掃

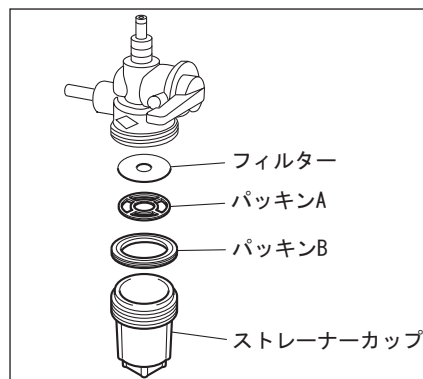
燃料ストレーナーは、埃やゴミがたまると燃料の流れが悪くなります。

定期的に清掃を行ってください。

重要

燃料ストレーナーの清掃は、埃やゴミの無い清潔な場所で行ってください。

1. 燃料フィルターの燃料コックを閉じてください。
2. 燃料コックのストレーナーカップを取り外してください。
3. ストレーナーカップ内部とフィルターを引火性の低い灯油などの溶剤で洗浄してください。
4. 圧縮空気で乾燥させてください。



重要

取り付けるときは、チリや埃が付着しないように注意してください。
燃料内にチリや埃などが混入すると、燃料の流れが悪くなります。

5. 元のように正しく組み付けてください。
6. 燃料タンクに燃料を満たし、燃料コックを開いてください。
7. 燃料漏れが無い確認してください。

5-18. 各部油漏れの点検

50時間くらい使用すると、締め付け部の緩みなどが発生し、オイルやグリースが漏れる可能性があります。

必ず増し締めを行ってください。

機械の下を確認し、オイルやグリースなどの漏れが無い確認してください。

6. 締め付けトルク

重要

締め付けトルク一覧を参照してください。

異常な締め付け、オーバートルクでの締め付けなどで生じた不具合については、弊社では責任を負いかねます。

重要

各部には、ボルト止めが多く使われております。使用初期はボルト、ナットなどの緩みが出る場合がありますので、必ず増し締めを行ってください。

6-1. 標準締め付けトルク

特別指示のないボルト、ナットは、適切な工具により適正な締め付けトルクで締め付けてください。

締め付けが強すぎると「ねじ」は緩んだり、破損したりします。

締め付け強さは、ねじの種類、強度、ねじ面や座面の摩擦などで決めております。

一覧表は、亜鉛メッキまたはパーカー処理したボルトを対象としております。めねじの強度が弱い場合は適用できません。

さびていたり、砂などが付着している「ねじ」は、使用しないでください。

所定の締め付けトルクを与えても締め付け不足になります。

ねじ面の摩擦が大きくなり、締め付けトルクのほとんどを摩擦損失し、締め付ける力になりません。

「ねじ」が水や油で濡れている場合は、通常の締め付けトルクで締めないでください。ねじが濡れるとトルク係数が小さくなり、締め過ぎになります。



締め過ぎると、ねじが伸びて緩んだり、破損することがあります。

一度、大きな負荷がかかったボルトは、使用しないでください。

インパクトレンチで締めるときは、熟練が必要です。

できるだけ安定した締め付け作業ができるように練習してください。

呼び径	一般ボルト 強度区分 4.8		
			
	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	3 - 5	30.59 - 50.99	26.55 - 44.26
M6	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66
M8	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17
M10	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34
M12	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02
M14	70 - 94	713.79 - 958.52	619.57 - 831.99
M16	88 - 112	897.34 - 1142.06	778.89 - 991.31
M18	116 - 144	1,182.85 - 1,468.37	1,026.72 - 1,274.54
M20	147 - 183	1,498.96 - 1,866.05	1,301.10 - 1,619.73
M22	295	3,008.12	2,611.05
M24	370	3,772.89	3,274.87
M27	550	5,608.35	4,868.05
M30	740	7,545.78	6,549.74

呼び径	調質ボルト					
	強度区分 8.8			強度区分 10.9		
						
N-m	kgf-cm	lb-in	N-m	kgf-cm	lb-in	
M5	5 - 7	50.99 - 71.38	44.26 - 61.96	7 - 10	71.38 - 101.97	61.96 - 88.51
M6	8 - 11	81.58 - 112.17	70.81 - 97.36	14 - 18	142.76 - 183.55	123.91 - 159.32
M8	23 - 29	234.53 - 295.71	203.57 - 256.68	28 - 38	285.52 - 387.49	247.83 - 336.34
M10	45 - 57	458.87 - 581.23	398.30 - 504.51	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 672.68
M12	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1186.03
M14	106 - 134	1,080.88 - 1,366.40	938.21 - 1,186.03	140 - 188	1,427.58 - 1,917.04	1,239.14 - 1,663.99
M16	152 - 188	1,549.94 - 1,917.04	1,345.35 - 1,663.99	210 - 260	2,141.37 - 2,651.22	1,858.71 - 2,301.26
M18	200 - 240	2,039.40 - 2,447.28	1,770.20 - 2,124.24	280 - 340	2,855.16 - 3,466.98	2,478.28 - 3,009.34
M20	245 - 295	2,498.27 - 3,008.12	2,168.50 - 2,611.05	370 - 450	3,772.89 - 4,588.65	3,274.87 - 3,982.95
M22	-	-	-	530	5,404.41	4,691.03
M24	-	-	-	670	6,831.99	5,930.17
M27	-	-	-	1,000	10,197.00	8,851.00
M30	-	-	-	1,340	14,628.78	11,860.34

6-2. 機種別締め付けトルク

GS500C

次のボルト、ナットは下記のトルクで締め付けてください。

ねじ緩み止め剤は、ネジロック中強度（スリーボンド 1322 相当品 嫌気性封着剤）を塗布してください。

部位	コード番号	品名	締め付けトルク			ねじ緩み止め剤
			N-m	kgf-cm	lb-in	
刃物・スタンド部	K0100270002	27 ナット	200 以上	2039.40 以上	1770.20 以上	-
ミッション部	K0013060301	6 調質ボルト 30	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66	-
	K0010080252	8 調質ボルト 25	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17	-

7. 使用前の調整

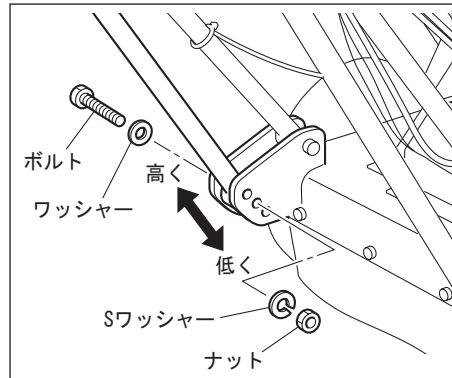
7-1. ハンドルの調整

作業者の作業位置に合わせてハンドル高さを調整することができます。

▲注意

ハンドルの高さを調整した場合、カッタークラッチレバーと走行クラッチレバーのテンションの調整も行ってください。
ハンドルの上下によりテンションの強さが変化します。

- ① ボルト、ナットを緩めてください。
- ② ハンドルステアとフレームの穴位置を任意の位置に合わせてください。
- ③ ボルト、ナットを締め付けてください。
- ④ ベルトの張りを調整してください。



7-2. 切り込み深さの調整

前ローラーの高さを調整することにより、切り込み深さを調整することができます。

▲警告

バッチカルカッティング作業中は、切り込み深さの調整をしないでください。

▲注意

切り込み深さの調整はエンジンを停止して、すべての駆動が停止していることを確認してから行ってください。

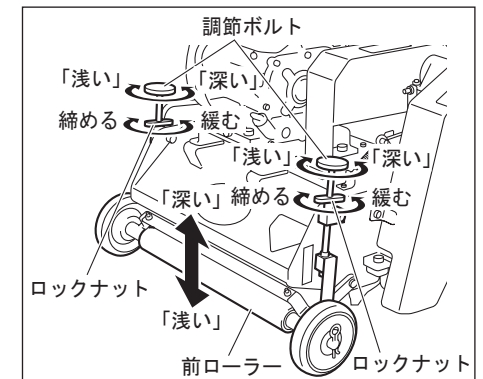
重要

前ローラーを上下させるときは、左右の調節ボルトを2回転以内で交互に回転させてください。
ローラーを片側のみ大きく上下させるとローラーが変形します。

重要

目盛りマークはセット深さのため目安です。実際の深度とは異なる場合があります。

- ① 左右のロックナットを緩めてください。
- ② 左右の調節ボルトを回し、切り込み深さを調整してください。
参考：
約2 mm (0.08 in) /1回転で、目盛りマークの1目盛りは2 mm (0.08 in) です。
- ③ 左右のロックナットを締め付けてください。
- ④ 調節ボルトが固定されていることを確認してください。



8. エンジン始動・停止

8-1. エンジン始動上の注意

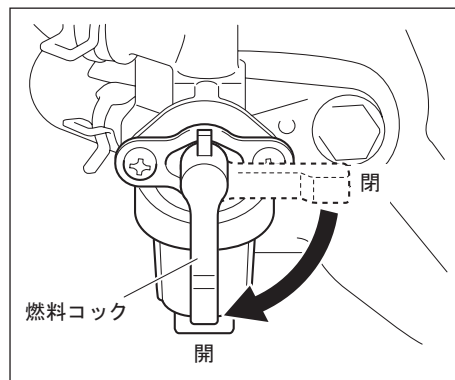
▲注意 適切な換気装置のない建物内では始動しないでください。

重要 カバー類が正しい位置にあって、損傷していないか確認してください。

8-2. エンジン始動手順

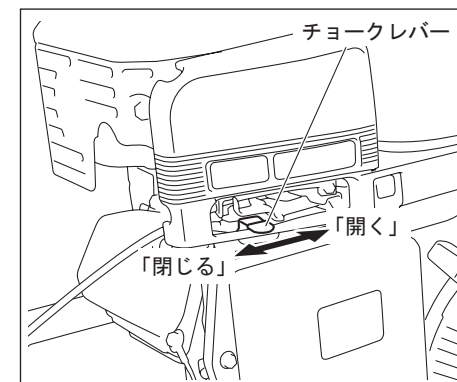
▲警告
エンジンを始動する前に機械の周囲に人や障害物が無いことを確認してください。

- ① エンジンスイッチが「OFF」になっていることを確認してください。
- ② ブレーキがかかっていることを確認してください。
- ③ 走行クラッチレバーを「切」の位置にしてください。
- ④ カッタークラッチレバーを「切」の位置にしてください。
- ⑤ チェンジハンドルを「N」の位置にしてください。
- ⑥ 燃料コックを「開」の位置にしてください。



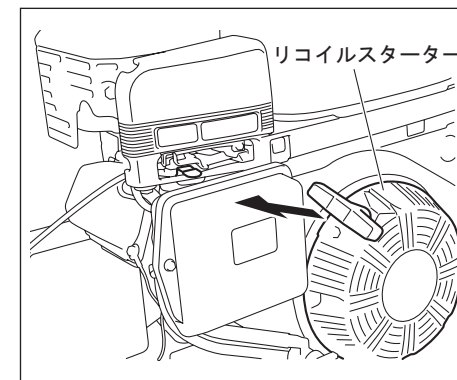
- ⑦ エンジンスイッチを「ON」の位置にしてください。
- ⑧ スロットルレバーを「低速」側から半分程度「高速」側へ動かしてください。

- ⑨ チョークレバーを「全閉」の位置にします。
再始動の場合は、必要に応じ、半分程度「開く」側へ動かします。



重要
エンジン始動後はスターターグリップをゆっくりと元の位置に戻してください。
スターターグリップを引いたまま手を放すと、機器の損傷につながります。

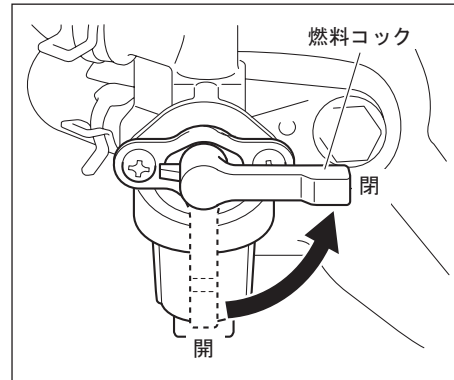
- ⑩ リコイルスターターのスターターグリップを勢いよく引き、エンジンを始動してください。



- ⑪ エンジンが始動したことを確認し、チョークレバーをゆっくりと「全開」の位置へ戻します。

8-3. エンジン停止手順

- ① 走行クラッチレバーを「切」の位置にしてください。
- ② カッタークラッチレバーを「切」の位置にしてください。
- ③ ブレーキをかけてください。
- ④ チェンジハンドルを「N」の位置にしてください。
- ⑤ スロットルレバーを「低速」側にして1 - 2分間、空運転してください。
- ⑥ エンジンスイッチを「OFF」の位置にしてください。
- ⑦ エンジンが停止したことを確認してください。
- ⑧ 燃料コックを「閉」の位置にしてください。



9. 操作方法

9-1. 機械操作上の注意

▲注意

機械を操作する前に、各部品 operates 状態が良好であり、特にブレーキ、クラッチなどに異常が無いを確認してください。

▲注意

作業地域内の障害物は取り払い、運転者あるいは周囲の人がケガをしないようにしてください。

9-2. 機械を離れるときの注意

▲注意

機械を水平な場所に駐車してください。
傾斜地での駐車は絶対にしないでください。

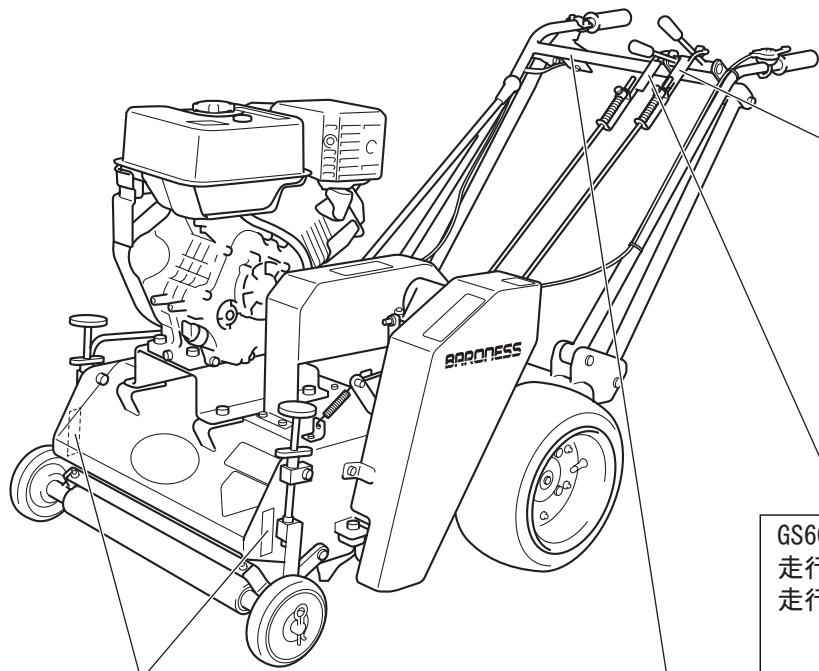
▲注意

エンジンが確実に停止していることを確認してください。

▲注意

ブレーキがかかっていることを確認してください。

9-3. 操作ラベルの説明



GS60---0335Z0
 カッタークラッチプレート
 カッタークラッチを示しています。

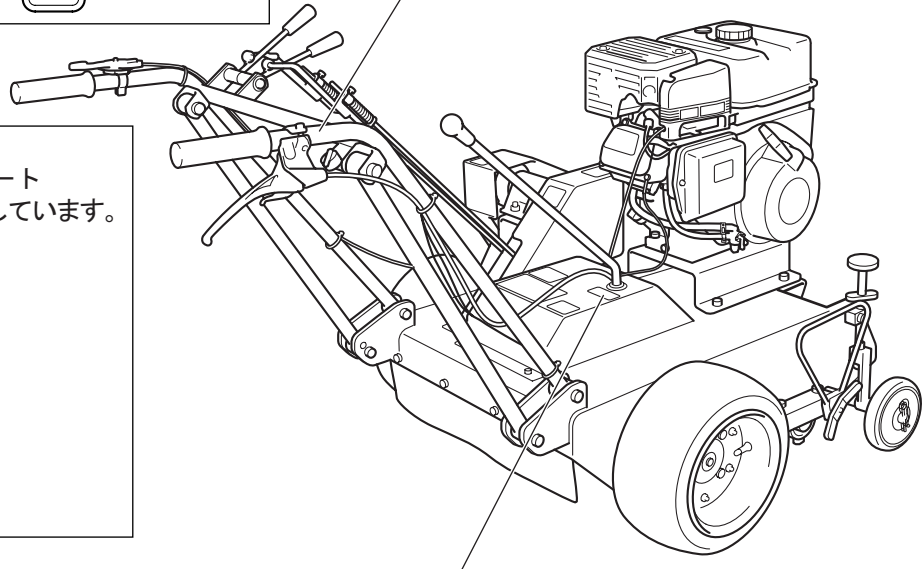
カ
タ
ー
ク
ラ
ッ
チ

K4203000440
 ブレーキレバーマーク
 ブレーキレバーの位置を示しています。

ブ
レ
ー
キ
レ
バ
ー

GS60---0334Z0
 走行クラッチプレート
 走行クラッチを示しています。

走
行
ク
ラ
ッ
チ



K4209000820
 目盛りマーク
 スライス刃の切り込み深さの目安を示しています。
 目盛りマークの1目盛りは2mm (0.081in) です。

K4203000680
 エンジンスイッチマーク
 エンジンスイッチの位置を示しています。

エ
ン
ジ
ン
ス
イ
ッ
チ

O
F
F O
N

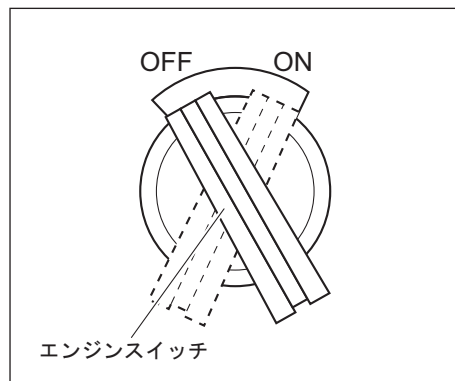
K4202000080
 変速プレート
 チェンジハンドルの位置を示しています。

高 低 後
速 (N) 速 (N) 進

9-4. エンジンスイッチ

エンジンスイッチは、ハンドルにあります。

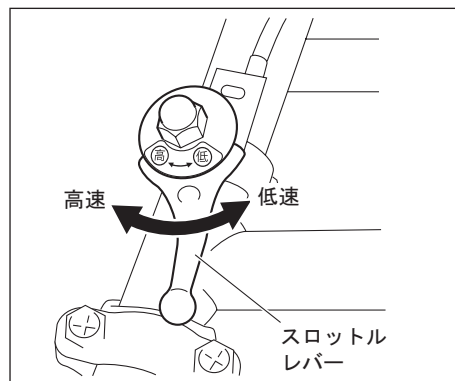
エンジンを始動するときはスイッチを「ON」の位置にし、エンジンを停止するときはスイッチを「OFF」の位置にします。



9-5. スロットルレバー

スロットルレバーは、ハンドルにあり、エンジン回転速度の高低をレバーで調整します。

スロットルレバーは、「高速」側にするとエンジン回転速度が高くなり、「低速」側にするとエンジン回転速度が低くなります。



9-6. ブレーキレバー

重要

走行中の駐車ブレーキ操作は、ブレーキシューの異常磨耗や焼き付きの原因になります。

ブレーキレバーを操作するときは、走行クラッチレバーを切ってください。

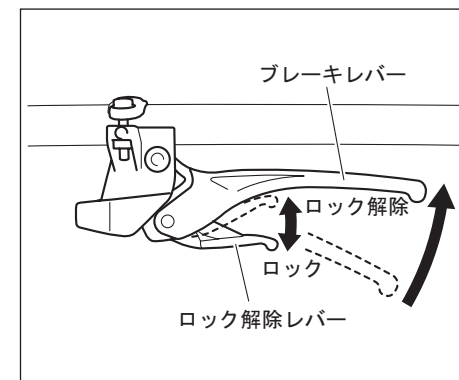
ブレーキレバーはハンドルにあります。

ブレーキレバーを握るとブレーキがかかり、ブレーキレバーを強く握るとブレーキレバーがロックされます。

ロック解除レバーを握ると、ブレーキレバーのロックは解除されます。

参考：

駐車ブレーキとして使用することができます。



9-7. 走行クラッチレバー

▲警告

後進時は、後方に障害物がないことを確認してください。
転倒したり、障害物にはさまれて、重大な事故につながります。

▲注意

「高速」は走行速さが速いため、傾斜地や地形の悪い場所では使用しないでください。

重要

走行クラッチレバーはゆっくりと入れてください。
急激に入るとエンストやベルトの損傷につながります。

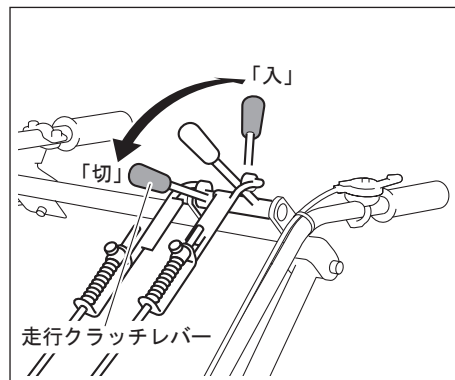
重要

走行クラッチレバーは、チェンジハンドルを作業や移動に適した位置に操作してから操作してください。

走行クラッチレバーはハンドルにあります。

走行クラッチレバーを手前に引くとテンションが入り走行します。

走行クラッチレバーを押すとテンションが切れます。



9-8. チェンジハンドル

▲警告

後進時は、後方に障害物がないことを確認してください。
転倒したり、障害物に挟まれて、重大な事故につながります。

▲注意

「高速」は走行速さが速いため、傾斜地や地形の悪い場所では使用しないでください。

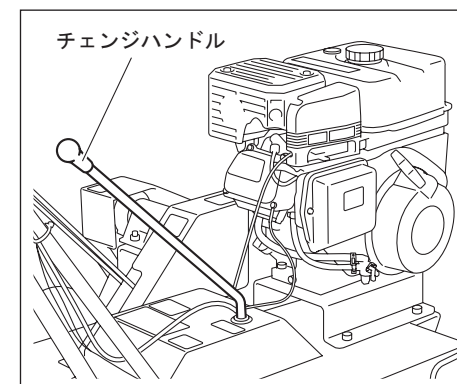
▲注意

チェンジハンドルは、平坦な場所で、走行クラッチレバーを切ってから操作してください。

重要

ミッションが破損するおそれがありますので、走行中はチェンジハンドルを切り替えないでください。

作業や移動に適した任意の位置にチェンジハンドルを合わせてください。



9-9. カッタークラッチレバー

▲警告

スライス刃の回転している部分は危険ですので、手足や物を入れたり、触れたりしないでください。

▲注意

カッタークラッチレバーは、バーチカルカutting作業直前に入れ、それ以外のときは、必ず切っておいてください。

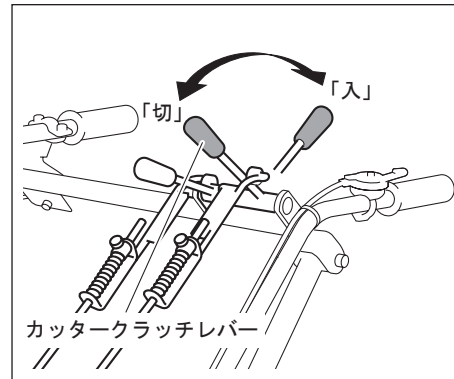
重要

カッタークラッチレバーはゆっくりと入れてください。
急激に入れるとエンストやベルトの損傷につながります。

カッタークラッチレバーはハンドルにあります。

カッタークラッチレバーを手前に引くとスライス刃が回転します。

カッタークラッチレバーを押すとスライス刃の回転が停止します。



10. 移動

▲警告

急発進・急停車は、絶対行わないでください。

▲注意

どのような場合にも、緊急停止ができる速さで運転してください。

1. エンジンを始動します。
2. チェンジハンドルを任意の位置にします。
3. ブレーキを解除します。
4. 走行クラッチレバーをゆっくりと「入」の位置にします。
5. 機械は走行を始めます。

11. 作業

11-1. パーチカルカッティング操作



警告

機械が横転する可能性がありますので、急傾斜地では使用しないでください。



注意

急発進・急停車は、絶対行わないでください。



注意

スライス刃が芝生に接触しているときは、後進や旋回をしないでください。
また、スライス刃を回転させずに前進しないでください。
芝生を傷めたり、機械が故障したりします。



注意

作業は必ず低速で、場所にあったエンジン回転速度で行ってください。
後進作業は、絶対に行わないでください。



注意

カッタークラッチは作業直前に「入」側にして、それ以外のときは必ず「切」側にしておいてください。

重要

パーチカルカッティング作業は、移動用前車輪を取り外して行ってください。

重要

刃物部はゆっくり下げて、芝生やスライス刃を損傷しないようにしてください。

重要

石や岩が地中にあると予想される場合は、刃物回転速度を下げてください。

1. エンジンを停止してください。
2. 移動用前車輪を取り外してください。
3. ハンドルを押さえて、刃物部を地面から浮かせた状態にしてください。
4. チェンジハンドルを任意の位置にしてください。
5. エンジンを始動してください。
6. ブレーキを解除してください。
7. 走行クラッチレバーを「入」の位置にしてください。
8. 作業直前にカッタークラッチレバーを「入」の位置にして、刃物を回転させてください。
9. 前ローラーを地面に接触させて、パーチカルカッティング作業を始めてください。
ターンをするときは、ハンドルを押さえて、刃物部を浮かせてください。
10. 作業終了後、エンジンを停止してください。
11. 移動用前車輪を取り付けてください。

11-2. 移動用前車輪の脱着



移動用前車輪の脱着は、水平な場所で行ってください。



スタンドを立てた状態は、機械が非常に不安定です。機械から離れないでください。

重要

パッチカルカッティング作業は、移動用前車輪を取り外して行ってください。

移動タイヤは自走で移動する際に使用します。

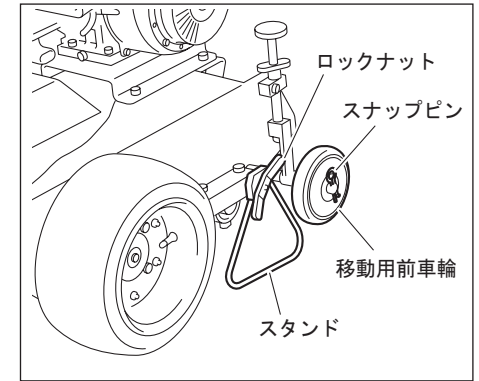
移動用前車輪の取り外し：

1. エンジンを停止してください。
2. スタンドのロックナットを緩めてください。
3. ハンドルを下に押しして機械前部を浮かせてください。
スタンドが下に向いた状態になります。
4. ハンドルから手を離してください。
5. スタンドのロックナットを締め付けてください。
6. 移動用前車輪が浮いた状態のまま、スナップピンを抜いてください。
7. 移動用前車輪を取り外してください。
8. 反対側の移動用前車輪も同様の手順で取り外してください。
9. スタンドのロックナットを緩めてください。
10. 機械を前後に動かしてスタンドがかかっていない（前ローラーが地面に接地した）状態にしてください。



スタンドのロックナットをしっかりと締め付けてください。
作業中および移動中にスタンドが下がって芝生などに食い込み、ハンドルをとられるおそれがあります。

11. スタンドを上げて、ロックナットを締め付けてください。



移動用前車輪の取り付け：

移動タイヤの取り付けは、取り外しの逆の手順で行ってください。

12. 運搬

▲注意

機械を積み降ろしするときは、滑らない靴を着用し、ゆっくりと走行してください。

重要

ロープを掛けて機械を固定するときは、ロープをエンジンに掛けないでください。

重要

ロープを掛けて機械を固定するときは、ワイヤーを曲げないように注意してください。

この機械をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、輪止めをして行ってください。

トラックやトレーラーに積載して移動するときは、この機械の駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。

あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。

13. 長期保管

- 泥や草屑、油汚れなどをきれいに落としてください。
- 各注油箇所にグリース注入、塗布と注油をしてください。
- 不具合箇所や塗装のはがれた箇所は整備をしてください。
- 燃料抜き取り

重要

長期間使用しない場合はキャブレター内の燃料をすべて抜き取ってください。燃料が腐敗した場合、キャブレターを交換しないとエンジンが始動しないことがあります。

燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。

- 清掃、オイル交換
車両本体およびエンジンなどをきれいにし、エンジンオイル、エアクリーナーオイル、エレメントの点検交換をしてください。
- タイヤの空気圧
標準よりやや高めにし、湿気から守るために板の上に乗せてください。
- 格納場所
雨のかからない乾燥した場所で、カバーなどをかけてください。

メンテナンス

14. メンテナンス上の注意

▲注意

実施するメンテナンスを熟知してから行ってください。

重要

メンテナンスを行う際に必要な工具は、目的にあったものを使用してください。

重要

常に安全に、最高の性能でお使い頂くために、交換部品やアクセサリは BARONESS 純正部品をお求めください。
純正部品以外の部品をご使用になった場合、製品保証を受けられなくなる場合がありますので、ご注意ください。

14-1. メンテナンスの注意事項

- メンテナンスは乾燥したきれいで平坦な場所で行ってください。
- エンジンは必ず停止し、それを確認してから作業を行ってください。
- 機械が作動中は、給油やメンテナンスをしないでください。
- 駆動・作動部分には手足を近づけないでください。
- すべての部品は、良い状態で正しく取り付けてください。
- 損傷部品は直ちに修理、交換してください。
- 磨耗損傷部品は、交換してください。
- 機械の改造はしないでください。整備上の必要部品は、安全確保のために純正部品を使用してください。
- ゴミやグリース、オイルの付着は、取り除いてください。
- 機械を持ち上げて作業をするときは、安全で確実なサポートをしてください。

14-2. メンテナンス時の機械姿勢

重要

機械のメンテナンスを行うときなど、ハンドル側を下にして倒した姿勢で長時間放置すると、エンジンの燃焼室にエンジンオイルが入り、エンジン不調の原因となることがありますので注意してください。
また、ハンドルを立てた位置に戻してからオイルが戻るのに十分な時間を確保するため、10分経過してからエンジンを始動してください。

15. メンテナンススケジュール

○…点検、調整、給油、清掃

●…交換

	メンテナンス	使用前	50 時間 ごと	200 時間 ごと	300 時間 ごと	備考
エンジン	オイルレベルのチェック	○				
	オイルの交換		●			最初は 8 時間
	エアクリーナー・エレメントの清掃	○		●		
	スパークプラグ交換			●		
	燃料チェック	○				
本体	ミッションオイル交換				●	最初は 50 時間
	ブレーキワイヤー	○				
	V ベルト	○				
	V ベルト交換			●		
	タイヤの空気圧	○				
	各部のねじの緩み	○				
	グリースアップ		○			
ゴミなどの除去	○					

◆上表の時間にとらわれず、必要に応じて早めに行ってください。

◆上記以外のメンテナンススケジュールについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

◆消耗品については、保証値ではありません。

16. ジャッキアップ

16-1. ジャッキアップについて

▲警告

タイヤ交換などの整備や修理を行う場合は、必ず輪止めなどをして、機械が動かないようにしてください。

機械をコンクリートなどの堅い平らな床に確実に駐車し、機械をジャッキアップする前に安全作業の妨げになる障害物を取り除いてください。

必要に応じ、適切なチェーンブロックやホイスト、およびジャッキを使用してください。

持ち上げている機械は、ジャッキスタンドや適切なブロックを使用し、確実に支えてください。

ジャッキスタンドや適切なブロックで機械を確実に支えられていない場合は、機械が動いたり、落ちたりするおそれがあります。

人身事故の原因となります。

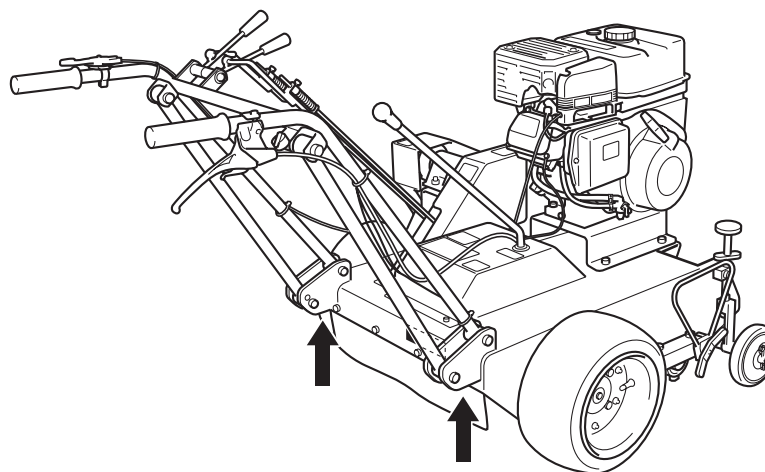
この機械をジャッキアップする場合は、ジャッキアップポイントに記載してある位置で行ってください。

指示された位置以外では、ジャッキアップしないでください。

フレームや部品が破損するおそれがあります。

16-2. ジャッキアップポイント

フレーム部



17. グリースアップ

17-1. グリースアップについて

可動部がグリース切れにより、固着したり、破損したりする可能性がありますので、グリースアップの必要性があります。

メンテナンススケジュールに従って、ウレア系2号グリースでグリースアップしてください。

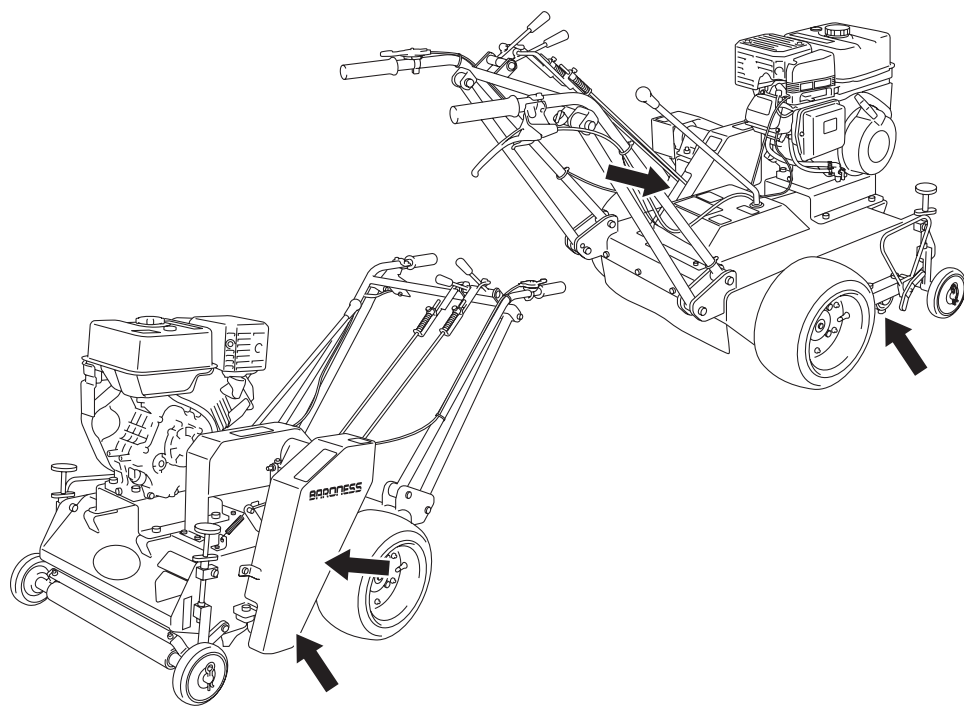
その他指定のグリース、潤滑油を使用する場所は、「グリースアップ位置」に記載されています。

指定のグリース、潤滑油でグリースアップしてください。

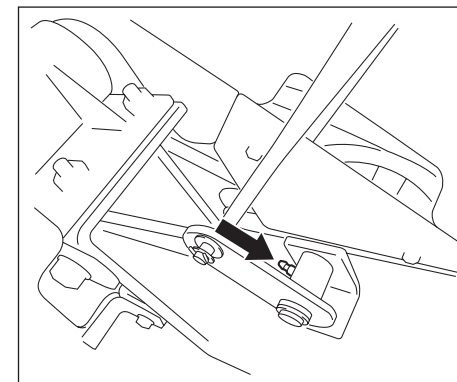
17-2. グリースアップ位置

次の場所にグリースニップルが取り付けられています。

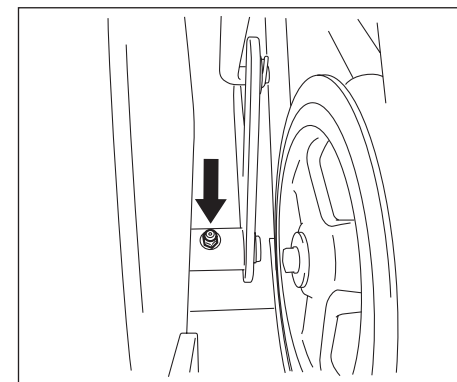
50時間ごとにグリースアップしてください。



1. アイドルレバー

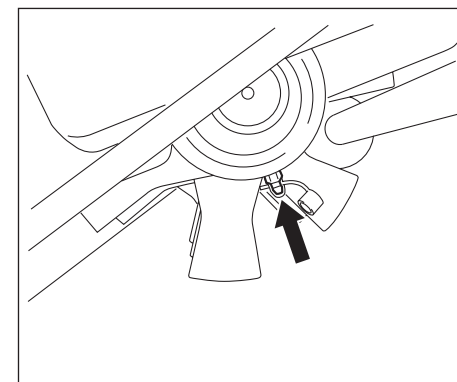


2. 走行テンションレバー



3. ピロー形ユニット

刃物シャフトの両端の軸受に1か所ずつあります。



18. メンテナンスの方法

18-1. スライス刃の交換

▲警告

スライス刃を交換する場合は、必ずエンジンを停止してください。
スライス刃やベルトが回転して、手足を切るおそれがあります。

▲注意

スライス刃は刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

▲注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

▲注意

スライス刃を交換するとき、スタンドは使用しないでください。

重要

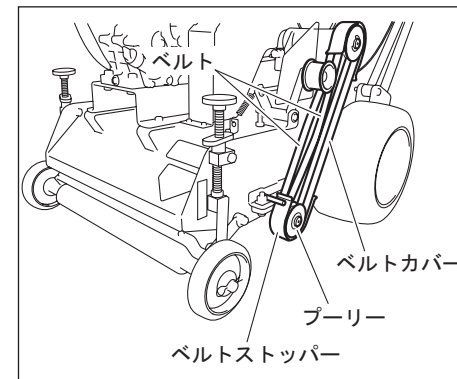
スライス刃は全数交換してください。

スライス刃の取り外し

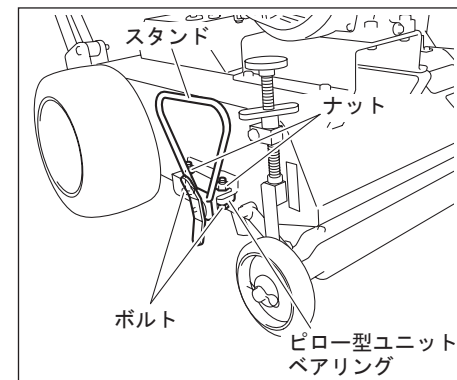
▲注意

ピロー型ユニットベアリングのボルトを取り外すと、スライス刃 Assy が機械から外れて落ちるので注意してください。

- 以下の要領で、スライス刃 Assy を取り外します。
 - ベルトカバーを取り外します。
 - ベルトストッパーを取り外します。
 - テンションを緩め、ベルト2本をプーリーから外します。

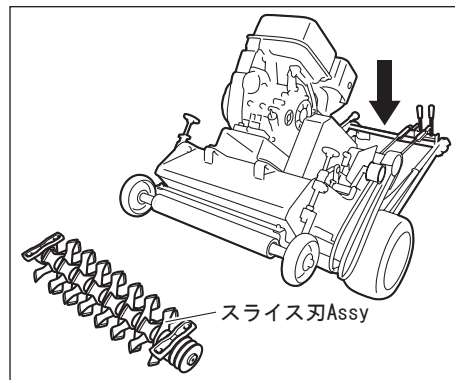


- ピロー型ユニットベアリングを取り付けているボルトとナットを取り外して、スライス刃 Assy を地面に落とします。
その際、スタンドも同時に外れます。



- 機械のハンドルを下に押し、バーチカルカッティング部を上にあげます。

⑥ 機械を後進させ、スライス刃 Assy を取り外します。



2. スライス刃 Assy を分解します。

- ① プーリーと反対側のピロー型ユニットベアリングを取り付けているホーローセットを取り外します。
- ② ピロー型ユニットベアリングを取り外します。
- ③ ナットを取り外します。
- ④ S ワッシャーとカラー B を取り外します。
- ⑤ スライス刃とカラーを取り外します。

スライス刃の取り付け

1. 以下の要領で、スライス刃 Assy を組み付けます。

- ① プーリー側を下にして、刃物シャフトを立てます。
- ② スライス刃を 1 枚とカラー A を取り付けます。

参考：

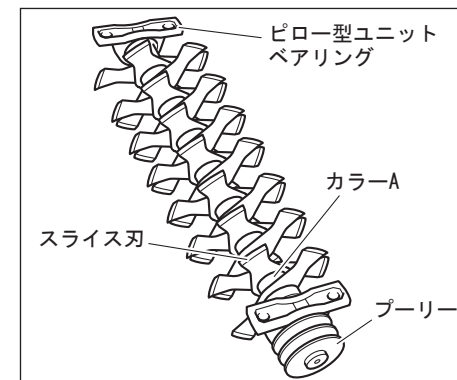
スライス刃を刃物シャフトへ 1 枚挿入するごとに、刃物シャフトを反時計回りに六面のうちの一面ずつ回転させてください。

刃の角度を 60 度ずつずらしながら、刃先がらせん状になるように組み立てます。

また、カラー A はスペーサー用のため、カラーの枚数で刃の間隔を調整することができます。

スペーサー用のカラー A の幅は 24 mm (0.94 in) です。

- ③ カラー B と S ワッシャーを取り付けます。
- ④ ナットを取り付け、しっかりと締め付けます。
- ⑤ プーリーと反対側のピロー型ユニットベアリングをホーローセットで取り付けます。



2. スライス刃 Assy を取り付けます。

スライス刃 Assy の取り付けは、取り外し手順の逆の方法で行ってください。

18-2. ベルトの張り調整



警告

ベルトの調整を行う場合は、必ずエンジンを停止してください。



注意

カバーなどを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。
カバーなどが取り外されていると、回転物やベルトに触れたり、異物が飛散してケガをするおそれがあります。

重要

ベルトの張りは、調整値を確認してください。
規定値であるかの確認は、ベルトを数回転させた後に行ってください。

使用頻度により、ベルトが緩いと踊ったり、スリップする可能性があります。
また、張り過ぎると損傷が早くなる可能性があります。
必要に応じて調整し、いつも適正な張り具合に保ってください。

走行用ベルト

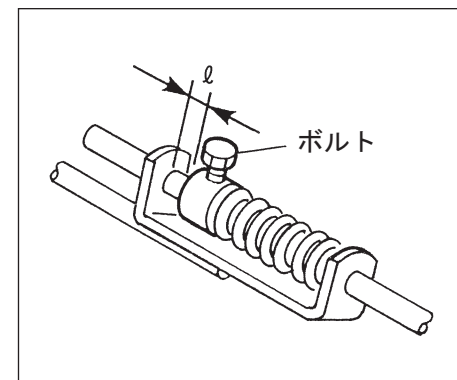
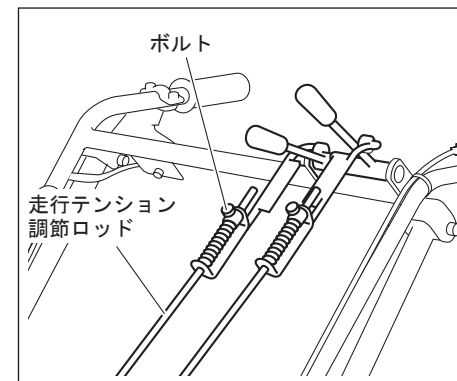
走行クラッチレバーを入れたり切ったりして、以下のことを確認してください。

- ・ 走行クラッチレバーが正常に動くこと。
- ・ テンションスプリングが適正に張られていること。

エンジンプーリーとミッションプーリーにかけてある走行用ベルトの張りは、テンション調節ロッドの伸縮で調整します。

① 走行クラッチレバーを「入」の位置にしてください。

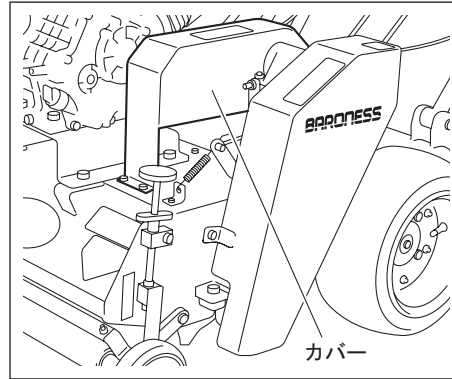
- ② ボルトを緩め、テンションスプリングの長さを調整してください。
ベルトを張ったときの l 寸法が7 - 8 mm (0.28 - 0.31 in) になるように調整してください。



- ③ ボルトを締め付けてください。

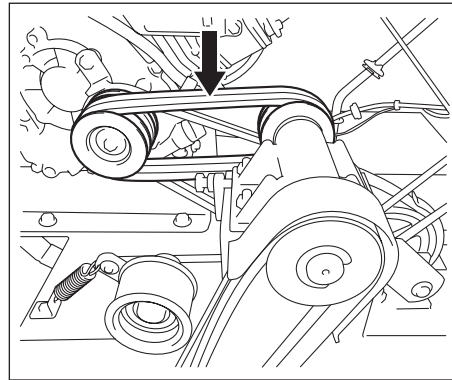
カッターベルト（エンジン - 中間軸）

① カバーを取り外してください。



② エンジンプーリーと中間軸プーリーにかけてあるカッターベルトの張り具合を確認してください。

ベルトの張りは、ベルトのプーリー間の中央を指で軽く 25 N (2.5 kgf) で押さえて 5.0 - 10.0 mm (0.20 - 0.39 in) たわむ程度であれば適正です。



カッターベルト（中間軸 - ナイフ軸）

カッタークラッチレバーを入れたり切ったりして、以下のことを確認してください。

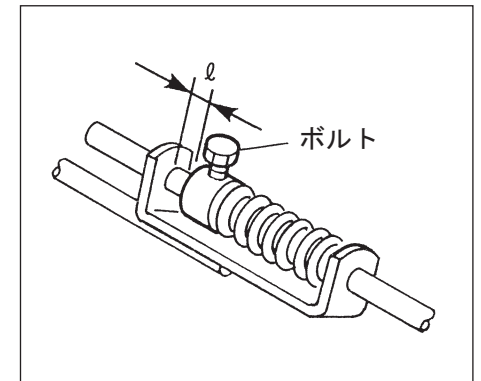
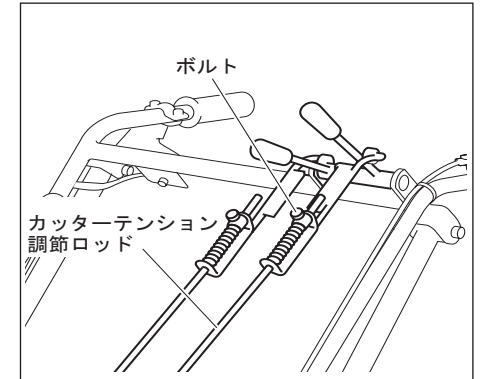
- ・カッタークラッチレバーが正常に動くこと。
- ・テンションスプリングが適正に張られていること。

中間軸プーリーとナイフ軸プーリーにかけてあるカッターベルトの張りは、カッターテンション調節ロッドの伸縮で調整します。

① カッタークラッチレバーを「入」の位置にしてください。

② ボルトを緩め、テンションスプリングの長さを調整してください。

ベルトを張ったときの l 寸法が 7 - 8 mm (0.28 - 0.31 in) になるように調整してください。



③ ボルトを締め付けてください。

18-3. ブレーキの調整

▲注意

ブレーキワイヤーが切れると、この機械は停止不能となります。
亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

▲注意

ブレーキをかけても、ブレーキの効きが悪くなったら、ブレーキワイヤーの調整をしてください。

▲注意

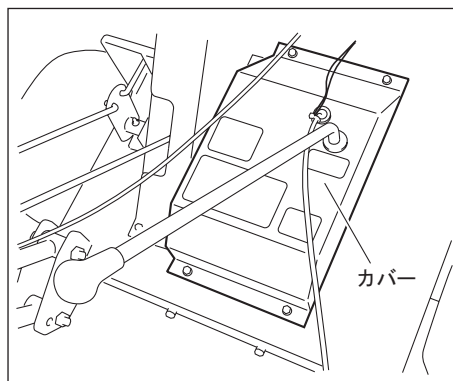
ブレーキの作動確認は、周囲に人や障害物が無いことを確認して、広い水平な場所で行ってください。

重要

ワイヤーの引きすぎは、ブレーキシューの異常磨耗や焼き付きの原因になります。

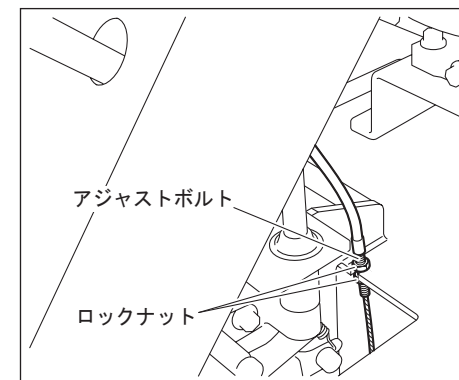
ブレーキは、ブレーキワイヤーのミッション側にあるアジャストボルトで調整してください。

1. ブレーキレバーをロックしてください。
2. カバーのボルトを取り外し、カバーを上スライドさせてください。



3. ロックナットを緩め、アジャストボルトをブレーキが効く位置に調整し、ロックナットを確実に締め付けてください。
アジャストボルトを反時計回りに回すと、ブレーキワイヤーが張ってブレーキが効くようになります。

4. ブレーキレバーのロックを解除したときに、ブレーキシューがブレーキドラムに当たっていないことを確認してください。
ブレーキの引きずりを防止します。
5. ブレーキの点検をして、ブレーキの作動が良好であるか確認してください。



18-4. エアクリナーの交換

エアクリナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。エンジンの寿命を延ばすために適切な時期に交換をするように心掛けてください。

1. エアクリナーエレメントの交換時期は、以下のとおりです。
 - [1] エアクリナーエレメントは、メンテナンススケジュールに従って交換してください。
 - [2] 汚れの多い場合は、規定時間に達していなくても交換してください。
2. エアクリナーエレメントの交換は、エアクリナーの清掃と同様の手順で行ってください。

18-5. エンジンオイルの交換

▲注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

重要

エンジンオイルを交換する場合は、エンジンオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

重要

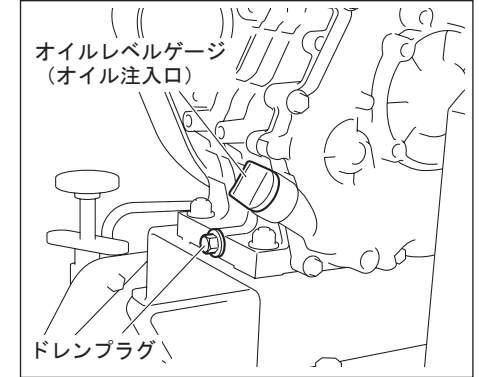
エンジンオイルは、API サービス分類の SE 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

エンジンオイルが汚れていたり、埃の多い環境で運転した場合や、エンジンを高負荷あるいは高温で運転した場合は、オイル交換の回数を増やしてください。

1. 機械を平らな場所に移動させ、エンジンを停止してください。
2. エンジンオイルが温まっている間にドレンプラグを取り外し、エンジンオイルを容器に抜き取ってください。
3. ドレンプラグをエンジンに再度取り付けてください。
4. オイルレベルゲージを取り外してください。
5. オイル注入口から新しいエンジンオイルを入れてください。
エンジンオイル量は、1.0 dm³ (1.0 L) です。
6. エンジンを水平な状態にし、注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。



7. オイルレベルゲージで量を確認した後、不足していれば追加してください。
8. オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。
9. 機体の下を確認し、油漏れが無いことを確認してください。

18-6. ミッションオイルの交換

▲注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

重要

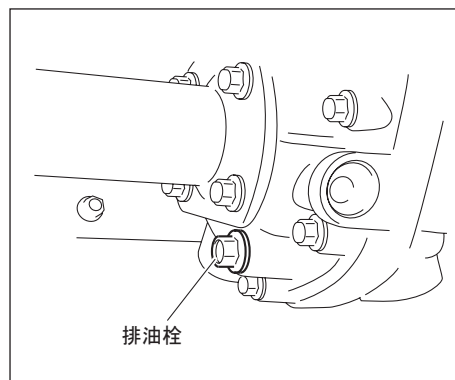
ミッションオイルを交換する場合は、ミッションオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

重要

ミッションオイルは、自動車用ギヤオイルで、SAE 粘度分類の 90 番を使用してください。

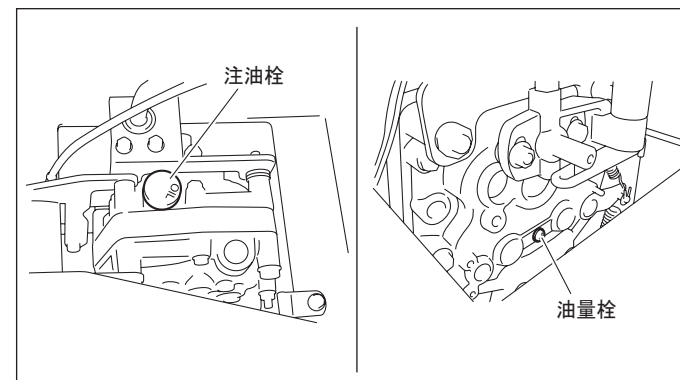
ミッションオイルは、メンテナンススケジュールに従って交換してください。

1. 機械を平らな場所に移動させ、エンジンを停止してください。
2. ミッションオイルが温まっている間に排油栓を取り外し、ミッションオイルを容器に抜き取ってください。
3. 排油栓をミッションに取り付けてください。



4. 注油栓と油量栓を取り外してください。
5. 注油口より、新しいミッションオイルを入れてください。
ミッションオイル量は、 1.0 dm^3 (1.0 L) です。
6. ミッションオイルが油量栓の口元まで入っていることを確認してください。

7. 注油栓と油量栓を取り付けてください。



8. 機体の下を確認し、油漏れが無いことを確認してください。

BARONESS[®]
Quality on Demand



株式会社 共栄社

〒442-8530
愛知県豊川市美幸町1-26

TEL (0533) 84-1221
FAX (0533) 84-1220